

# 政策環境建設常任委員会 議事次第

令和8年4月15日(水)

午後1時30分～

於：第2委員会室

## 1 開 会

## 2 所管事項の調査

「生物多様性の保全に向けた取組について」

参考人：近畿大学

名誉教授 細谷 和海 氏

## 3 その他

## 4 閉 会

## 政策環境建設常任委員会 委員名簿

	氏 名	会 派	他の所属 委員会等	備 考
委員長	古 林 良 崇	自 民	文化力	
副委員長	田 中 英 夫	〃	暮らし	
〃	小 原 舞	府 民	文化力 △ 議 運	予算特別副委員長
委 員	片 山 誠 治	自 民	文化力	
〃	兎 本 和 久	〃	—	副議長
〃	小 卷 久 美	〃	○ 暮らし	
〃	西 村 由 貴 子	〃	子育て	
〃	畑 本 久 仁 枝	維 国	暮らし	
〃	田 中 志 歩	〃	暮らし	
〃	馬 場 紘 平	共 産	子育て	
〃	水 谷 修	〃	地 域	
〃	山 口 勝	公 明	新技術	

○ 副委員長 △ 理事

政策環境建設常任委員会 出席要求理事者名簿

【総合政策環境部】	
総合政策環境部長	岡本孝樹
総合政策環境部企画調整理事 (総合政策環境部副部長兼務)	松浦快仁
総合政策環境部子育て社会推進監 (総合政策室長兼務)	米倉大悟
総合政策環境部副部長 (子育て社会推進監付理事兼務)	白波瀬 衛
総合政策環境部副部長	西村敏弘
総合政策環境部技監	笠原淳史
総合政策環境部企画参事	島津大
総合政策室企画参事	宮田聖徳
総合政策室企画参事	三嶋孝佳
総合政策室企画参事	池永昭二
地域政策室長	吉田宏則
地域政策室企画参事 (北部担当)	古田良明
地域政策室企画参事 (中部担当)	仲村貴人
地域政策室企画参事 (南部担当)	池松達人
政策環境総務課長	野村宗平
万博・地域交流課長	子川貴司
情報政策課長	青木耕一郎
デジタル政策推進課長	後藤幸宏
企画統計課長	川嶋三佳
大学政策課長	河野勉
脱炭素社会推進課長	中埜博之
循環型社会推進課長	水落高明
自然環境保全課長	杉本圭哉
環境管理課長	峯勝之

【商工労働観光部・建設交通部】	
商工労働観光部・建設交通部港湾局長*	相木 敢
商工労働観光部・建設交通部港湾局副局長	秋田伸治

\*農商工労働常任委員会と同時開催の  
場合は、同委員会に出席

【建設交通部】	
建設交通部長	石井宏明
建設交通部企画調整理事 (建設交通部副部長兼務)	山本哲也
建設交通部技監 (土木担当)	渡邊裕幸
建設交通部技監 (都市・建築住宅担当)	壺井康之
建設交通部公営企業管理監 (建設交通部副部長併任)	曾和良広
建設交通部理事	浅野浩司
建設交通部理事 (建設企画担当)	西岡久
建設交通部理事 (道路政策担当)	采尾直久
建設交通部理事 (広域交通政策担当)	八田直哉
建設交通部理事 (地域交通政策担当)	細井浩一
建設交通部理事 (治水政策担当)	奥野真章
監理課長	里友宏
監理課参事	今西秀和
指導検査課長	水谷真
用地課長	辻川明德
道路計画課長	傍島史宗
道路建設課長	大下浩一
道路管理課長	前田志朗
交通政策課長	坂晃昭
河川課長	濱口正英
砂防課長	高橋正治
都市計画課長	坂本智生
建築指導課長	瀬野一樹
住宅政策課長	山口正樹
住宅整備課長	鹿野俊成
営繕課長	丸山忍
*公営企業経営課長	荒木直哉
水道政策課長	碓正登
下水道政策課長	工藤真

(計 55 名)

※ 新任理事者

政策環境建設常任委員会 出席要求理事者名簿  
(4月15日)

【総合政策環境部】	
総合政策環境部技監	笠原淳史
政策環境総務課長	野村宗平
自然環境保全課長	杉本圭哉

( 計 3 名 )

# 京都府における生物多様性保全の概況

令和 8 年 4 月  
総合政策環境部

## 1 京都府における生物多様性保全の現状・課題

- ・ 人間の暮らしは、生物多様性を基盤とする生態系からの恵みにより支えられているが、京都府では、絶滅のおそれのある野生生物種が約 2 割増加するなど、生物多様性の損失が進んでいる。(H14 (2002) : 1,595 種 → H27 (2015) : 1,935 種)
- ・ 近年、アライグマやクビアカツヤカミキリなどの特定外来生物による被害が増加しており、府内の生態系や人々の暮らしへの影響が懸念される。
- ・ 都市化の進展や生活様式の変化等を背景に、人と自然との関わりが低下しており、里地・里山の荒廃や保全活動等の担い手不足の一因となっている。

## 2 対策の方向性

### <計画>

京都府生物多様性地域戦略（平成 30 年 3 月策定・令和 5 年 8 月一部改定）

### <対策の基本的な方向性>

- (1) 森里川海のつながりの回復による多様な生態系の保全
- (2) 人の積極的な関与による里地域の再生
- (3) 外来生物への早期対策
- (4) 生物多様性を未来に引き継ぐための知見の集積、人材育成

## 3 令和 8 年度の主な事業内容

- 生物多様性未来継承事業費 14,999 千円  
(主な取組)
  - ・ 府民協働による京都府指定希少野生生物の保全活動の推進
  - ・ 地域や府民と連携した特定外来生物の防除
  - ・ 「京都府レッドデータブック」の改訂
- きょうと生物多様性センター事業費 15,000 千円  
(主な取組)
  - ・ 府市連携による「きょうと生物多様性センター」の運営  
(生物多様性情報の集積、担い手の育成、ネットワーク形成等)
  - ・ 「いきものフェス」など子どもたちが自然に触れ合う機会の創出や幅広い地域・年齢層を巻き込んだ普及啓発の実施
  - ・ 「自然共生サイト」※の認定支援や企業による保全活動の支援  
※ 環境省が認定する「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域等」
  - ・ 企業と保全団体の取組をつなぐ「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」の推進